

## もくじ

- ・ シンデレラ

# シンデレラ

げんさく 原作：  
どうわ グリム童話

イラスト： かわの まほ

へんしゅう 編集：  
YellowBirdProject

むかし、あるところに、<sup>ひとり わか むすめ</sup>一人の若い娘がいました。  
<sup>むすめ はは あね さんにん く</sup>娘は、母と姉と、三人で暮らしていました。母と姉は、  
<sup>いえ しごと</sup>家の仕事を、<sup>むすめひとり お つ</sup>すべてその娘一人に押し付け、自分たち  
<sup>きかざ まいにちあそ</sup>はきれいに着飾り、毎日遊びに出かけていました。

<sup>むすめ やす はたら ふく からだ</sup>娘は休むひまなく働かされ、服も体も、いつも  
<sup>はい よご むすめ</sup>ほこりや灰にまみれて汚れていました。娘はいつしか、  
<sup>はい い み よ</sup>灰だらけという意味の『シンデレラ』と呼ばれるよう  
 になりました。

<sup>ひ いえ しろ ぶとうかい</sup>ある日、シンデレラの家にお城から舞踏会の  
<sup>しょうたいじょう とど はは あね おお</sup>招待状が届きました。母と姉は、大よろこびです。

「シンデレラ、パーティードレスの<sup>じゅんび</sup>準備をして  
 ちょうだい！」

「<sup>かみかざ</sup>髪飾りも、<sup>くつ</sup>ネックレスも、靴も、きれいにみがいて  
 おくのよ！」

<sup>ふたり</sup>二人はシンデレラに、<sup>つぎつぎ しごと い つ</sup>次々と仕事を言い付けました。



シンデレラは、<sup>じぶん</sup>自分もパーティーにいきたいとおもいましたが、<sup>き</sup>着ていくドレスも<sup>な</sup>無く、<sup>くつ</sup>すてきな靴や、<sup>ひと</sup>アクセサリーの<sup>も</sup>一つも持っていません。シンデレラは、あきらめるしかありませんでした。

そして、パーティーの<sup>とうじつ</sup>当日。母と姉は、<sup>はは</sup>母と<sup>あね</sup>姉は、<sup>めいっぱい</sup>目一杯おしゃれをして、<sup>しろ</sup>お城へ<sup>で</sup>出かけていきました。シンデレラは、もちろん<sup>るすばん</sup>留守番です。シンデレラは<sup>いす</sup>椅子に<sup>こしか</sup>腰掛け、<sup>ひとり</sup>一人<sup>な</sup>泣いていました。するとその<sup>とき</sup>時、<sup>きいろ</sup>黄色い<sup>ひかり</sup>光の<sup>たま</sup>玉が、<sup>まど</sup>窓から<sup>へや</sup>部屋に<sup>と</sup>飛び<sup>こ</sup>込んできました。光の玉は<sup>ひかり</sup>部屋中を<sup>たま</sup>飛び<sup>へやじゅう</sup>回ったあと、シンデレラが<sup>すわ</sup>座っていた<sup>いす</sup>椅子の<sup>せ</sup>背もたれに、<sup>は</sup>ちょこんと<sup>み</sup>とまりました。よく見るとそれは、<sup>はね</sup>羽を生やした、<sup>ちい</sup>小さな<sup>じょせい</sup>女性でした。白い<sup>しろ</sup>ドレスを<sup>き</sup>着て、<sup>て</sup>手に<sup>つえ</sup>杖を<sup>も</sup>持っていました。

